



お盆休みが明けてからはあっという間。

9月、まだまだ暑い日が続いていますが、夜は随分と涼しくなりました。
雨の降る日は肌寒く感じるほど。虫の音も変わりましたね。

つい先日までは、家の近くの電柱かどこかで夜通し鳴き続ける
セミたちにうんざりしていましたが、
「風物詩」ということで。聞こえなくなってしまうと、
それはそれで寂しいような気がします。

夏の終わりという寂しい気分になりますが、
次は実りの秋(笑)。行楽シーズン、紅葉も楽しみです。

長岡の田んぼも見渡す限り、すっかりこがね色。壮観です。
早生（わせ）の品種はすでに刈り取りが始まり、
稲わらのおいを嗅ぐといよいよ秋だなと思います。
稲刈りを手伝っていると、下枝を切られたひよろ長い木々が目に付きました。

「稲架木」をご存じですか。
日本各地で様々な形・呼び名があるため一概には言えませんが、

長岡地域では「はざぎ」「はさぎ」などと呼ばれることが多いものです。
文字の通り、稲を架ける木。
横に棒を渡して固定し、刈り取った稲を吊り下げて
自然乾燥させるときに使いました。“生きた支柱”とも言えるでしょうか。

農業の機械化によって活躍の場を失ってからは減少の一途をたどり、
今ではなかなか珍しい存在です。
ほんの数十年前まで、稲刈りといえば一家総出の作業でした。
苦しく大変な作業ながらも休憩時間やお昼時には、
家族やご近所さんの賑やかな声が飛び交い、
稲架木は団欒を見守っていたことでしょう。

長岡の街を囲む広大な田園風景。
ずっとそのまま、変わらずに在るようでいて、
何度も季節が巡れば確実に変わっていくんだなあと、
独特の樹形を眺めながら思いました。
過ぎ去った昔を、人々の営みを今に伝えてくれる大切な地元の遺産。
大切にしていきたいですね。